



旧中島家住宅のドヘツイ 解体される!!

5 月 23 日（土）24 日（日）、かまど解体、土作りのワークショップを行いました。

両日全 4 回のワークショップで、延べ 65 人のかまど再生サポーターや、これまで旧中島家住宅のドヘツイに携わってきた人たちの手によって解体されました。

解体に先だち、長年このドヘツイに火を入れてくださっていた、田中明雄さんが清めてくださいました。その後サポーターのみなさんが 2 日間かけ、丁寧に崩しました。崩した土は分別し、新しいかまどに使うため、フルイにかけて不純物を取り除き、きめ細かい土に戻しました。

この後の工程で、この土は“フネ”（かまど用の土を発酵させるためのプール）に、古畳から取り出したワラスサとともに入れ、1 ヶ月程度発酵させ、熟成させていきます。



▲解体前のお清め（5 月 23 日）

5 月 23 日（土）ワークショップの記録



▲みんなで解体、最初の一打は緊張～！



▲解体した土は再利用にむけて細かく。



▲さらにフルイにかけて細かく！ 技術指導の宮奥さんも土をチェック。

5 月 24 日（日）ワークショップの記録



▲宮奥さんからレクチャーを受け解体開始。



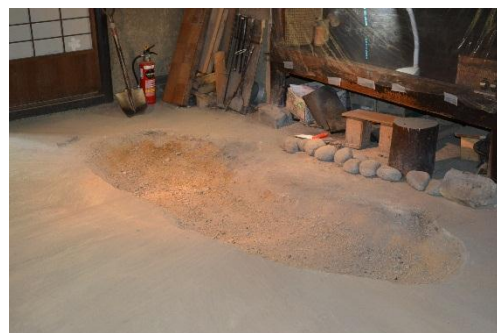
▲解体した土運びは重くて大変！でも新しいかまどに生まれ変わる土、精が出ます。



▲この日も篩う、篩う、土を作る。



◀(左) 最後の一打は、やはり田中明雄さんにお願ひしました。



◀(右) すっかりなにもなくなっちゃった、土間。勾玉型にぽっかり穴があいてしまいました。

解体や断面調査で分かったこと

断面調査で分かったことは、旧中島家住宅のドヘツツイの土は3層に分かれていることです。築造時に撮影された写真でも確認されることですが、土はまず馬蹄形に積み上げられ、その周りにさらに土を巻いて勾玉型にし、最後に化粧塗りを施されていました。なお、馬蹄形の土のなかには、瓦の破片が入っていました。



▲解体時、ドヘツツイの断面の様子。芯になる部分の外側を、別の土で巻く。表面の化粧塗りはほんの少し、数mm残っている程度でした。火に近い部分は赤く変色しています。

初代のドヘツツイの記録は、改めて詳しくこの事業の報告書に収録すこととします。

ドヘツツイの火をくべる火袋に近い土は、熱を受けて赤く変質していました。

技術指導の宮奥さんによると、この土はドヘツツイの土には再利用できないとのこと。ですが、土間の穴を埋める土として、再利用します。



▲断面調査チーム



▲宮奥さんによる実演 赤い土は水を含むとポロポロに、火を受けていない土は粘土に戻る。

ドヘツツイ再生レシピ②～6月6日ワークショップの手順～

指導：宮奥 淳司さん（宮奥左官工業 一級左官技能士）
コーディネーター：岸田 知之さん

6月6日（土）のワークショップの作業は大きく分けて、3つ。

1つは、古畳を解体し、細かいワラスサにすること。

1つは、前回のワークショップに引き続き、解体した土を篩い、細かにすること。

1つは、“フネ”のなかの土を、フルイで漉して大きなワラスサを取り除き、表面の化粧塗り用の土を作ること。

篩った土と、ワラスサは、フネに入れ捏ねます。化粧塗りの土には、細かく刻んだワラスサ（2cm程度）を混ぜ、寝かせます。



作業①-1 古い畳の縫糸をほどいて、なかから藁を取り出す。



作業①-2 畳から取り出した藁を、押し切りで細かく刻む。



作業② 前回解体した土をフルイにかけるなどして、細かくする。



作業③ フルイで“フネ”の土を漉し、化粧塗り用の土を選り分ける。スコップで裏漉しすようにするとよい。



適宜、土とワラスサを“フネ”に入れ、捏ねる。

七月四日（土）五日（日）です。
登録された方はよろしくお願いたします。
そのほかの方も見学自由です。

次回のかまど再生ワークショップは